

# 感染症発生動向調査委員会報告 3月

## 《今月のトピックス》

- インフルエンザ警報が発令されていますが、報告数は徐々に減少しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。

## 全数把握疾患

### <腸管出血性大腸菌感染症>

3件(O157 VT1VT2が2件、O111 VT1VT2が1件)の報告がありました。いずれも飲食店での喫食状況を確認しましたが、同行者等に有症状者等を認めませんでした。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

### <A型肝炎>

10代の報告が1件ありました。国内での感染が推定されていますが、周囲に感染者はおらず明らかな原因は不明です。

### <マラリア>

2件の熱帯熱マラリアの報告がありました。それぞれ、アフリカでの感染が推定されています。マラリアは、熱帯熱、三日熱、卵形、四日熱の4種類に分かれますが、中でも熱帯熱マラリアは短期間で重症化する危険があります。診断は血液塗抹標本をギムザ染色し、光学顕微鏡で検査する方法が一般的です。

### <アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症1件の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

### <後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)>

1件の無症候期の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

### <バンコマイシン耐性腸球菌感染症>

1件の報告がありました。遺伝子型は現在検査中です。

### <風しん>

2件の報告がありました。1件は10代で予防接種歴不明。発しん、発熱、リンパ節腫脹の臨床症状から診断されました。もう1件は30代で予防接種歴なし。職場の同僚が風しんであり、発しん、発熱、リンパ節腫脹を認めたことから診断されました。

## 定点把握疾患

平成24年2月20日から平成24年3月25日まで(平成24年第8週から平成24年第12週まで。ただし、性感染症については平成24年2月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 平成24年 週一月日対照表

第 8週	2月20日～26日
第 9週	2月27日～3月 4日
第10週	3月 5日～11日
第11週	3月12日～18日
第12週	3月19日～25日

### 1 患者定点からの情報

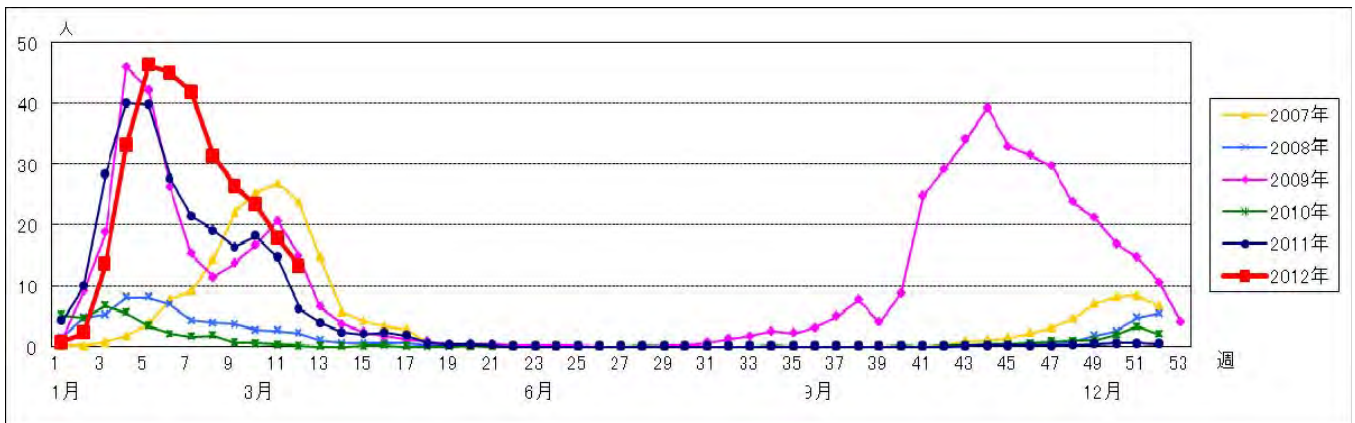
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

#### <インフルエンザ>

第5週に市全体で定点あたり46.26と流行のピークとなり、以後徐々に減少し、第12週では13.06となっています。迅速キットの結果は徐々にB型が増加し、第12週では86.6%がB型です。横浜市衛生研究所における、定点医療機関からのウイルス検出結果では、AH3型90件(64.3%)、B型(ビクトリア系統)31件(22.1%)、B型(山形系統)18件(12.9%)、B型(解析中)1件(0.7%)でした(第12週現在)。市内で検出されたウイルスの内、AH3型89株についてワクチン株(A/Victoria/210/2009)との抗原性解析を行ったところ、HI試験で、4倍が7株(7.9%)、8倍が59株(66.3%)、16倍が23株(25.8%)でした。また、市内で検出されたB型(Victoria系統)34株についてもワクチン株(B/Brisbane/60/2008)との抗原性解析を行ったところ、同等が1株(2.9%)、2倍が11株(32.4%)、4倍が22株(64.7%)でした(第12週現在)。

#### ◆横浜市衛生研究所:インフルエンザ流行情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2011.html>

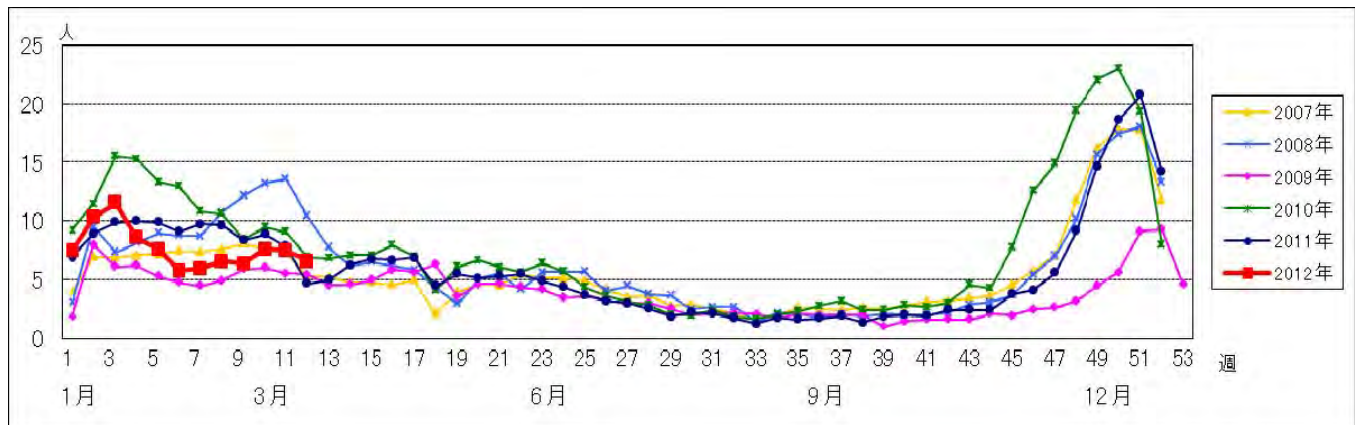


#### <感染性胃腸炎>

市全体では第12週では6.56と落ち着いていますが、神奈川区では第12週15.83と、終息基準値の12.00をわずかに上回っており、警報レベルが継続しています。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

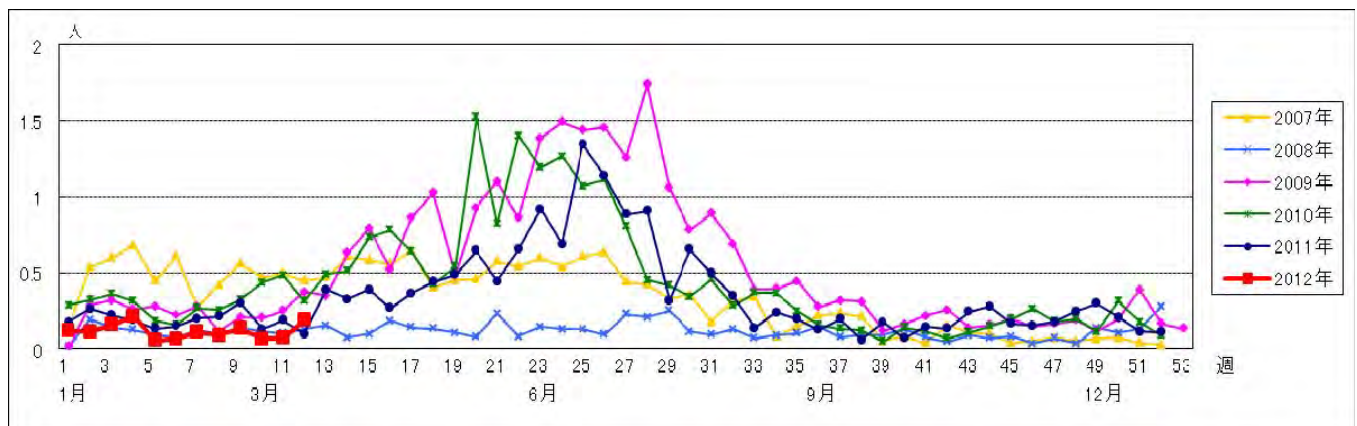
#### ◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>



### <伝染性紅斑>

市内全体では、第12週0.19と落ち着いていますが、中区2.00で警報レベルとなっています。



### <性感染症>

2月は、性器クラミジア感染症は男性が11件、女性が5件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が1件です。尖圭コンジローマは男性1件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が6件、女性が1件でした。

### <基幹定点週報>

マイコプラズマ肺炎が全国的に増加しており、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2～0.6程度で推移していましたが、第9週0.77、第10週0.79、第11週0.79、第12週0.74と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第9週では定点あたり0.33、10週0.00、11週0.00、12週0.50と、前シーズンの第9週0.00、第10週0.00、第11週0.00、第12週0.00を上回っています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

### <基幹定点月報>

2月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症8件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### <ウイルス検査>

3月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点42件(鼻咽頭ぬぐい液37件、ふん便5件)、内科定点12件(鼻咽頭ぬぐい液11件、ふん便1件)、眼科定点2件(眼脂)、基幹定点9件(鼻咽頭ぬぐい液7件、ふん便2件、髄液1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ(疑い症例を含む)27人、胃腸炎6人、下気道炎5人、上気道炎2人、発疹症、アデノウイルス扁桃炎各1人、内科定点はインフルエンザ9人、上気道炎2人、胃腸炎1人、眼科定点は流行性角結膜炎2人、基幹定点はインフルエンザ2人、肺炎、心筋炎、髄膜炎、ムンプス疑い、壊死性リンパ節炎、横紋筋融解症、不明熱各1人でした。

4月10日現在、小児科定点のインフルエンザ患者17人からインフルエンザウイルスB(以下B)型、内科定点のインフルエンザ患者6人からB型のウイルスが分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点のインフルエンザ患者9人と胃腸炎患者1人からインフルエンザウイルスAH3型(以下AH3型)、下気道炎患者1人からRSウイルス、胃腸炎患者1人からノロウイルスG II型、発疹症患者1人からコクサッキーA9型、内児科定点のインフルエンザ患者1人からAH3型のウイルス遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### <細菌検査>

3月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から菌株受付が15件、定点以外の医療機関等からは4件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7、VT1VT2、O111:H-、VT1VT2)が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から12件で、A群溶血性レンサ球菌、インフルエンザ菌、黄色ブドウ球菌が検出されました。

基幹およびその他の医療機関等からは5件で、B群溶血性レンサ球菌、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、バンコマイシン耐性腸球菌、破傷風菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(3月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	3月			2012年1月～3月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌						2
腸管出血性大腸菌			3			4
パラチフスA菌					2	
サルモネラ					20	1
コレラ菌						1
不検出	0	15	1	0	44	1

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	3月			2012年1月～3月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌				4		
T1				1		
T6				1		
T4				5		
T12	3			2		
T28				2		
T B3264				2		
B群溶血性レンサ球菌			2			11
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		1			2	
バンコマイシン耐性腸球菌			1		1	2
インフルエンザ菌	2			4		2
黄色ブドウ球菌	1			1		
破傷風菌		1			1	
不検出	6	2	0	6	5	5

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】